

# SSC3.1 update 1 にアップグレードするための Windows Server 2003 環境から Windows Server 2008 R2 環境への移行手順

## 対象バージョン: SSC3.1 update 1

本手順は、管理サーバOSにWindows Server 2003を使用している場合、SigmaSystemCenter 3.1 update 1にアップグレードする手順を記載します。

SigmaSystemCenter 3.1にて、Windows Server 2003は管理サーバOSのサポート対象外となりました。SigmaSystemCenter 3.0以前のバージョンからSigmaSystemCenter 3.1 update 1にアップグレードインストールする際、管理サーバOSにWindows Server 2003を使用している場合は、Windows Server 2008 R2、またはWindows Server 2012 (別マシン) に移行してください。

なお、DeploymentManagerのアップグレードを行うためには、"Windows Server 2003対応のDPMサーバインストールモジュール"の入手が必要です。

## 関連マニュアル

本書内で参照するマニュアルは、以下の通りです。

- ◆ SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド 第2版
- ◆ SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド 第2版

## "Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール" の入手方法

SigmaSystemCenter 3.1 update 1 DVD-R (\*) を使用して、Windows Server 2003 で DPM サーバをアップグレードインストールすることはできません。DPM サーバをアップグレードインストールする場合は、"Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール" を入手してください。

"Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール" の入手については、問い合わせ窓口にお問い合わせください。

(\*) 以降、本手順では「SigmaSystemCenter 3.1 update 1 DVD-R」を「SigmaSystemCenter DVD-R」と記載します。

# 1. 手順の流れ

アップグレード、および移行手順の流れは、以下の通りです。

本手順では、移行先環境を Windows Server 2008 R2 に移行する場合の手順を例に記載します。Windows Server 2012 に移行する場合は、適宜読み替えてください。

1.～3.が移行元環境 (Windows Server 2003)、

4.～7.が移行先環境 (Windows Server 2008 R2) での作業となります。

1. 移行元環境 (Windows Server 2003) で事前準備
2. 移行元環境 (Windows Server 2003) での SSC3.1 update 1 へのアップグレードインストール
3. SSC のエクスポート / データベースのバックアップ
4. 移行先環境 (Windows Server 2008 R2) での SSC3.1 update 1 の新規インストール
5. SSC のエクスポートした設定のインポート / データベースのリストア
6. ESMPRO/ServerManager への再登録
7. SSC0301-0003 パッチ適用

## 2. 注意事項

アップグレード、および移行を実施するにあたり、以下の注意事項があります。

- ◆ 移行元、移行先でホスト名、IP アドレスなどを変更しないものとします。IP アドレスを変更する場合は、移行前にサーバの IP アドレスを移行後のサーバの IP アドレスに変更し、移行作業を行ってください。
- ◆ SigmaSystemCenter 3.1 update 1 の ESMPRO/ServerManager Ver.5. 63 では、データ移行をサポートしていないため、新規インストールします。  
そのため、管理対象マシンを ESMPRO/ServerManager に再登録する作業が必要になります。  
(ESMPRO/ServerManager Ver.5 以降は同じ装置でのバックアップ / リストアはサポートしていますが、別装置へのデータ移行についてはサポートしておりません。)

## 3. 詳細手順

### 3.1. 移行元環境 (Windows Server 2003) で事前準備

アップグレードインストールを実施する前に、移行元環境 (Windows Server 2003) で別途インストールする必要のあるソフトウェアがあります。

管理サーバ (Windows Server 2003) には、以下のソフトウェアが必要です。

- ◆ インターネット インフォメーション サービス (IIS)
- ◆ .NET Framework 3.5 Service Pack 1
- ◆ Windows Imaging Component
- ◆ Windows Installer 4.5
- ◆ SQL Server 2008 R2 Express  
(SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードする場合のみ)

---

**注:** Windows Server 2003 には、SigmaSystemCenter DVD-R に同梱された SQL Server 2012 Express をインストールすることができません。

そのため、SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードする場合、事前に SQL Server 2008 R2 Express インスタンスをインストールする必要があります。

---

- ◆ Visual C++ 2008 ライブラリのランタイム  
(SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードする場合のみ)
- ◆ SQL Server Native Client 10  
(SigmaSystemCenter 2.xからアップグレードする場合のみ)

#### 3.1.1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) のインストール

インターネット インフォメーション サービス (IIS) をインストールします。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [Windows コンポーネントの追加と削除(A)] をクリックします。
3. 「Windows コンポーネント ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。[コンポーネント] リストボックスから [アプリケーション サーバー] をクリックします。
4. [詳細] をクリックします。
5. 「アプリケーション サーバー」ダイアログボックスが表示されます。[インターネット インフォメーション サービス (IIS)] をクリックし、[詳細] をクリックします。

6. 「インターネット インフォメーション サービス (IIS)」ダイアログボックスが表示されます。  
[WWW (World Wide Web) サービス]、[インターネット インフォメーション サービス マネージャ]、および [共通コンポーネント] チェックボックスがオンになっていることを確認し、「Windows コンポーネント ウィザード」ダイアログボックスに戻るまで [OK] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。インターネット インフォメーション サービス (IIS) のインストールが開始されます。

---

注: Windows のインストール CD の挿入を要求される場合があります。その場合、表示される画面の指示に従ってください。

---

8. インストール完了後、「Windows コンポーネント ウィザード」を終了します。

### 3.1.2. .NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストール

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールします。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されますので、以下がインストールされているかどうか確認します。

- Microsoft .NET Framework 3.5 SP1
- Microsoft .NET Framework 3.5 Language Pack SP1 - 日本語

3. インストールされていない場合、.NET Framework 3.5 Service Pack 1 を手動でインストールしてください。

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 再頒布可能パッケージは、SigmaSystemCenter DVD-R の以下に格納されています。

- .NET Framework 3.5 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ

インストール DVD-R\dotNet Framework40\dotnetfx35.exe

- .NET Framework 3.5 Service Pack 1 日本語 Language Pack

インストール DVD-R\dotNet Framework40\ja\dotnetfx35langpack\_x86ja.exe

### 3.1.3. Windows Imaging Component のインストール

Windows Imaging Component をインストールします。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されますので、[更新プログラムの表示(D)] チェックボックスをオンにします。
3. Windows Imaging Component がインストールされているかを確認します。
4. インストールされていない場合は、手動でインストールしてください。Windows Imaging Component のモジュールは下記のサイトからダウンロードしてください。

<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?displaylang=en&id=32>

### 3.1.4. Windows Installer 4.5 のインストール

Windows Installer 4.5 をインストールします。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
msiexec /?
```

2. Windows インストーラの画面が表示されます。バージョンが 4.5 以上であるかどうか確認します。
3. バージョンが 4.5 未満の場合は、Windows Installer 4.5 を手動でインストールしてください。Windows Installer 4.5 Redistributable は、SigmaSystemCenter DVD-R の以下に格納されています。

- Windows Installer 4.5 Redistributable

インストール DVD-R¥dotNet  
Framework40¥WindowsServer2003-KB942288-v4-x86.exe

### 3.1.5. SQL Server 2008 R2 Express のインストール

SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードする場合、SQL Server 2008 R2 Express をインストールします。

以下の表は、各コンポーネントが使用する SQL Server のインスタンスになります。

コンポーネント	インスタンス名
SystemProvisioning、および SystemMonitor性能監視	SSCCMDB (既定値)
DeploymentManager	DPMDBI (固定値)

---

**注:**

- SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用するインスタンス名の既定値は "SSCCMDB" です。インスタンス名を変更する場合は、読み替えてください。
  - DeploymentManager が使用するインスタンス名は、"DPMDBI" にする必要があります。
- 

1. 下記のサイトから SQL Server 2008 R2 Express のセットアッププログラムをダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=26729>

2. ダウンロードした SQLEXPRESS\_x86\_JPN.exe を実行し、表示される画面に従ってセットアップを進めます。
3. セットアップの途中で、「機能の選択」ダイアログボックスが表示されます。以下のチェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
  - SSCCMDB の場合: [データベースエンジンサービス]
  - DPMDBI の場合: [データベースエンジンサービス]、[SQL Server レプリケーション]
4. 「インスタンスの構成」ダイアログボックスが表示されます。[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」、または「DPMDBI」と入力し、[次へ(N)] をクリックします。
5. 「サーバーの構成」ダイアログボックスが表示されます。[SQL Server Database Engine] サービスのアカウント名に [NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
6. セットアップの途中で、「データベースエンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。[Windows 認証モード(W)] をオンにします。
7. 以降は、画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

### 3.1.6. Visual C++ 2008 ライブラリのランタイムのインストール

SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードする場合、Visual C++ 2008 ライブラリのランタイムをインストールします。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。以下がインストールされているかを確認します。

Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable - x86.9.0.30729.4148

3. インストールされていない場合、Visual C++ 2008 ライブラリのランタイムを手動でインストールしてください。Visual C++ 2008 ライブラリのランタイムは、SigmaSystemCenter DVD-R の以下に格納されています。

- Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ

インストール DVD-R¥DPM¥Setup¥VCRTL¥vcredist\_x86\_2008.exe

### 3.1.7. SQL Server Native Client 10 のインストール

SigmaSystemCenter 2.x からアップグレードする場合、SQL Server Native Client 10 をインストールします。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。以下のいずれかがインストールされているか確認します。

- Microsoft SQL Server 2008 Native Client
- Microsoft SQL Server 2008 R2 Native Client

3. 上記のどちらもインストールされていない場合、SQL Server Native Client 10 を手動でインストールしてください。"Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール"に格納されている以下のファイルを実行してください。

- (作業フォルダ)¥DPM¥Setup¥SQLNCLI¥sqlncli.msi

## 3.2. 移行元環境 (Windows Server 2003) での SSC3.1 update 1 へのアップグレードインストール

SigmaSystemCenter 3.0 以前のバージョンから SigmaSystemCenter 3.1 update 1 にアップグレードインストールします。

なお、SigmaSystemCenter DVD-R を使用して、Windows Server 2003 で DPM サーバをアップグレードインストールすることはできません。そのため、DPM サーバをアップグレードインストールするには、"Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール"を使用した個別手順となります。

また、DPM Ver6.0 (SigmaSystemCenter 3.0) より前のバージョンで作成したバックアップイメージファイルについては、以下の注意事項があります。



---

**注:**

- DPM Ver6.12 (SigmaSystemCenter 3.1 update 1) の Web コンソールで設定した「バックアップイメージ格納用フォルダ」に自動的に移動しません。手動で「バックアップイメージ格納用フォルダ」に移動してください。
  - バックアップイメージファイルが、「バックアップイメージ格納用フォルダ」にある場合、バックアップイメージファイルは、イメージとして DPM の Web コンソールの「イメージ一覧」ウィンドウに表示されますが、イメージに関連する情報は表示されません。関連情報を表示させるためには再度バックアップを行う必要があります。
- 

**1. アップグレードインストールを始める前に**

「SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド」の「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および事前作業を実施してください。

**2. 管理サーバの SigmaSystemCenter 3.1 update 1 へのアップグレード**

「SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド」の「3.3.2 インストール (アップグレード) を実行するには」から「3.3.9 インストール (アップグレード) の完了」を参照して、管理サーバを SigmaSystemCenter 3.1 update 1 にアップグレードしてください。

コンポーネント選択画面では、以下のコンポーネントのみを選択します。

- .NET Framework 4
- Java 2 Runtime Environment
- ESMPRO/ServerManager

インストール途中で「.NET Framework、WindowsInstaller の設定を有効にするには、システムを再起動する必要があります。すぐに再起動する場合は [はい] を、後で手動で再起動する場合は [いいえ] をクリックしてください。」ダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。システム再起動後、上記の残りのコンポーネントのアップグレードを実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール後、「完了」画面が表示されます。

システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、[後で手動で再起動する] を選択して、[完了(F)] をクリックしてください。

※この時点ではシステムの再起動は行わないように注意してください。

**3. DPM サービスの停止**

DPM サービスを停止します。

「SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド」の「3.3.1 DPM のサービスを停止する」を参照して、Tomcat のサービス、"DeploymentManager" で始まるサービスを停止します。

#### 4. PVM サービスの停止

PVM サービスを停止します。

- SigmaSystemCenter 1.3 以前の場合：  
[スタート] メニューから [SystemProvisioning] - [SystemProvisioning の停止] でサービスを停止します。
- SigmaSystemCenter 2.0 以降の場合：
  1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
  2. サービス一覧から "PVMService" を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

#### 5. DPM で使用するデータベースの作成

SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードする場合、DeploymentManager で使用するデータベースの作成を行います。

1. "Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール" に格納されている以下のファイルを実行してください。コマンドプロンプトを起動して、下記コマンドを実行します。

```
(作業フォルダ)¥DPM¥Setup¥DPM¥dbadmin.exe -i
```

#### 6. DSN の設定

DSN の設定を行います。以下の手順に従って、「DPM」という DSN を作成してください。ただし、SigmaSystemCenter 3.0 からアップグレードする場合は、DSN の設定は不要です。

1. コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行します。

```
%windir%¥System32¥odbcad32.exe
```

2. SigmaSystemCenter 2.x からアップグレードする場合、[システム DSN] タブに登録されている「DPM」という DSN を削除します。

3. [システム DSN] タブに「DPM」という DSN を作成します。

1. [システム DSN] タブで、[追加(D)] をクリックします。
2. 「データソースの新規作成」ダイアログボックスが表示されます。「SQL Server Native Client 10.0」を選択し、[完了] をクリックします。
3. 「SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する」ダイアログボックスが表示されます。以下を入力し、[次へ(N)] をクリックします。
  - [名前(M)] :DPM

▪ [サーバー(S)] : localhost¥DPMDBI

4. 「SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する」ダイアログボックスが表示されます。[統合 Windows 認証を使う(W)] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
5. 「SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する」ダイアログボックスが表示されます。[既定のデータベースを以下に変更する(D)]をオンにし、「DPM」を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
6. 以降は、画面の指示に従って、設定を完了してください。

## 7. DPM サーバをアップグレードインストールする

DPM サーバをアップグレードインストールします。

1. "Windows Server 2003 対応の DPM サーバインストールモジュール" に格納されている以下のファイルを実行してください。

(作業フォルダ)¥DPM¥Setup¥DPM¥setup.exe

---

注: インストールの途中で、「Tomcat をアンインストールします。よろしいですか。」とメッセージが表示された場合は、[いいえ(N)] を選択してください。

---

## 8. 管理サーバの SigmaSystemCenter 3.1 update 1 へのアップグレード

「SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド」の「3.3.2 インストール (アップグレード) を実行するには」から「3.3.9 インストール (アップグレード) の完了」を参照して、管理サーバを SigmaSystemCenter 3.1 update 1 にアップグレードしてください。

コンポーネント選択画面では、以下のコンポーネントのみを選択します。

- SystemMonitor 性能監視
- SystemProvisioning

## 9. システム再起動

システムを再起動してください。

## 10. アップグレードインストールをした後に

「SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド」の「3.4. Apache Tomcat をアンインストールする」、および「3.5. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後の手順を実施してください。

## 3.3. SSC のエクスポート / データベースのバックアップ

### 3.3.1. SSC サービスの停止

1. DPM に関して事前に確認する項目がありますので、以下を参照してください。  
「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」  
「10.4.1. DPM の初期セットアップ / 設定項目変更時にデータをバックアップするには」
2. 起動しているアプリケーション、Web ブラウザをすべて終了してください。
3. 以下の停止順番に従って、関連サービスの停止を行ってください。  
SigmaSystemCenter の各コンポーネントのサービスに名については、「4.2 SSC のサービス一覧」を参照してください。

#### 【サービス停止順番】

1. [SystemMonitor 性能監視]
2. [SystemProvisioning]
3. [DeploymentManager]
4. [ESMPRO/ServerManager]
5. [iStorageManager 関連サービス] (iStorage のストレージ制御を行っている場合)
6. [VMware 関連サービス] (VMware を使用している場合)

### 3.3.2. SSC のエクスポート / データベースのバックアップ

1. SystemMonitor 性能監視のエクスポート
  1. ファイルのエクスポート  
以下のファイルのエクスポートを行ってください。  
SystemMonitor 性能監視インストールフォルダの既定値は、  
%ProgramFiles%\¥NEC¥SystemMonitorPerformance です。
    - <SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ>\¥bin¥rm\_client.xml
    - <SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ>\¥bin¥rm\_service\_init.xml
    - <SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ>\¥bin¥rm\_database.xml
  2. データベースのバックアップ  
以下を参照して、データベースのバックアップを行ってください。  
「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」  
「10.3.1. SystemMonitor 性能監視をバックアップするには」  
「4. データベースをバックアップ」

## 2. SystemProvisioning のエクスポート

### 1. ファイルのエクスポート

SystemProvisioning インストールフォルダ配下すべてのエクスポートを行ってください。

SystemProvisioning インストールフォルダの既定値は、  
%ProgramFiles%\NEC\PVM です。

### 2. レジストリのエクスポート

以下のレジストリのエクスポートを行ってください。

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NEC\PVM

### 3. データベースのバックアップ

以下を参照して、データベースのバックアップを行ってください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.2.1. SystemProvisioning をバックアップするには」

「5. データベースをバックアップ」

## 3. DeploymentManager のエクスポート

### 1. ファイルのエクスポート

以下を参照して、ファイルのエクスポートを行ってください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.4.2. DPM の運用時に更新されるデータをバックアップするには」

「3. データのバックアップ」

### 2. データベースのバックアップ

以下を参照して、データベースのバックアップを行ってください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.4.2. DPM の運用時に更新されるデータをバックアップするには」

「4. データベースのバックアップ」

---

**注:** Microsoft SQL Server のインストールフォルダの既定値は、SQL Server のバージョンによって異なります。ご使用の SQL Server のインストールフォルダの既定値を確認してください。

#### ▪ SQL Server 2005 の場合

%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server\MSSQL.x\MSSQL

(MSSQL.x の x は、DB インスタンス数によって、自動で採番されます)

#### ▪ SQL Server 2008 R2 の場合

%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server\MSSQL10\_50.DPMDBI\MSSQL

---

### 3. レジストリのエクスポート

以下を参照して、レジストリのエクスポートを行ってください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.4.2. DPM の運用時に更新されるデータをバックアップするには」

「5. レジストリに記録されているデータのバックアップ」

## 3.4. 移行先環境 (Windows Server 2008 R2) での SSC3.1 update 1 の新規インストール

「SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド」の「2. インストールを実行する」を参照して、SigmaSystemCenter 3.1 update 1 を新規インストールしてください。

---

注: インストール時のパラメータ (インストールパス、パスワード、SQL Server インスタンス名など) を移行元環境と同じ設定にしてインストールを行ってください。

---

インストール完了後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

システム再起動後は何も設定を行わずに以降の作業を行ってください。

## 3.5. SSC のエクスポートした設定のインポート / データベースのリストア

### 3.5.1. SSC サービスの停止

1. DPM に関して事前に設定する項目がありますので、以下を参照してください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.4.3. DPM をリストアするには」

「2. DPM サーバの設定」

2. 起動しているアプリケーション、Web ブラウザをすべて終了してください。
3. 以下の停止順番に従って、関連サービスの停止を行ってください。

SigmaSystemCenter の各コンポーネントのサービスに名については、「4.2 SSC のサービス一覧」を参照してください。

#### 【サービス停止順番】

1. [SystemMonitor 性能監視]
2. [SystemProvisioning]
3. [DeploymentManager]
4. [ESMPRO/ServerManager]
5. [iStorageManager 関連サービス] (iStorage のストレージ制御を行っている場合)
6. [VMware 関連サービス] (VMware を使用している場合)

## 3.5.2. エクスポートした設定のインポート / データベースのリストア

### 1. DeploymentManager のインポート

#### 1. ファイルのインポート

以下を参照して、ファイルのインポートを行ってください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.4.3. DPM をリストアするには」

「4. データのコピー」

#### 2. データベースのリストアの事前準備

以下を参照して、データベースのリストアの事前準備を行ってください。

「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」

「10.4.3. DPM をリストアするには」

「5. データベースのコピー」

「6. フォルダへコピーされたバックアップファイルの設定を確認」

---

**注:** SQL Server 2012 の場合、「6. フォルダへコピーされたバックアップファイルの設定を確認」で確認するユーザは「MSSQL\$DPMDBI」です。

---

### 3. データベースのリストア

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

---

**注:** 以下は、DPMDBI インスタンスのインストールフォルダが「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.DPMDBI\MSSQL」の場合の実行例です。実際のパスに合わせて実行してください。

---

```
> osql -E -S localhost¥DPMDBI
1> RESTORE DATABASE DPM
2> FROM DISK = 'DPM.bak'
3> WITH MOVE 'DPM' TO 'C:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL11.DPMDBI\MSSQL¥DATA¥DPM_DATA.MDF',
MOVE 'DPM_LOG' TO 'C:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL11.DPMDBI\MSSQL¥DATA¥DPM_LOG.LDF',
REPLACE
4> GO
```

### 4. レジストリのインポート

移行元環境でエクスポートしたレジストリのインポートを行います。

32ビット OS と 64ビット OS で既定のインストールパスが異なるため、既定のインストールパスでインストールを行った場合は、移行元環境でエクスポートした reg ファイルをテキストエディタなどで編集する必要があります。

レジストリの編集例については、「4.1 レジストリの編集」を参照してください。

編集後、「%windir%\¥syswow64¥regedit.exe」を起動し、レジストリをインポートしてください。

上記のレジストリ配下以外のレジストリを変更している場合は、移行後にレジストリの再設定を行ってください。

## 2. SystemProvisioning のインポート

### 1. ファイルのインポート

移行元環境でエクスポートしたファイルのインポートを行います。

エクスプローラなどからインストールフォルダに対し上書きコピーを行ってください。

SystemProvisioning インストールフォルダの既定値は、

%ProgramFiles(x86)%¥NEC¥PVM です。

エクスポートしたファイルすべてを上書きコピーしてください。

### 2. データベースのリストア

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。ここでは、Cドライブの ¥temp に "backup.dat" というバックアップファイルから復元する例を示します。

---

#### 注:

・インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) から変更した場合、"(local)¥インスタンス名" としてください。

・以下は、SSCCMDB インスタンスのインストールフォルダが「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11.SSCCMDB¥MSSQL」の場合の実行例です。実際のパスに合わせて実行してください。

---

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB
1> RESTORE DATABASE pvminf
2> FROM DISK = 'C:¥temp¥backup.dat'
3> WITH MOVE 'PVMINF' TO 'C:¥Program Files¥Microsoft
SQL Server¥MSSQL11.SSCCMDB¥MSSQL¥DATA¥PVMINF.mdf',
MOVE 'pvminf_2' TO 'C:¥Program Files¥Microsoft SQL
Server¥MSSQL11.SSCCMDB¥MSSQL¥DATA¥pvminf_2.ndf',
MOVE 'PVMINF_log' TO 'C:¥Program Files¥Microsoft SQL
Server¥MSSQL11.SSCCMDB¥MSSQL¥DATA¥PVMINF_log.ldf',
REPLACE
4> go
```

### 3. レジストリのインポート

移行元環境でエクスポートしたレジストリのインポートを行います。

32ビット OS と 64ビット OS で既定のインストールパスが異なるため、既定のインストールパスでインストールを行った場合は、移行元環境でエクスポートした reg ファイルをテキストエディタなどで編集する必要があります。

レジストリの編集例については、「4.1 レジストリの編集」を参照してください。



編集後、「%windir%\syswow64\regedit.exe」を起動し、レジストリをインポートしてください。

#### 4. レジストリの変更

Windows Server 2003 と Windows Server 2008 R2 では、IIS の既定の Web サイト名が異なるため、「%windir%\regedit.exe」を起動し、以下のレジストリの変更を行ってください。

レジストリキー:

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM

値の名前: WebSiteDescription

変更前の値: 既定の Web サイト

変更後の値: Default Web Site (\*)

(\*) IIS マネージャで Default Web Site の下に Provisioning 仮想ディレクトリが作成されていることを確認した上で、変更してください。

### 3. SystemMonitor 性能監視のインポート

#### 1. ファイルのインポート

移行元環境でエクスポートを行ったファイルのインポートを行います。

エクスプローラなどからインストールフォルダに対し書きコピーを行ってください。

SystemMonitor 性能監視インストールフォルダの既定値は、

%ProgramFiles(x86)%\NEC\SystemMonitorPerformance です。

- <SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ>\bin\rm\_client.xml
- <SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ>\bin\rm\_service\_init.xml
- <SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ>\bin\rm\_database.xml

#### 2. データベースのリストア

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。ここでは、Cドライブの %temp に "sysmonbk.dat" というバックアップファイルから復元する例を示します。

---

#### 注:

・インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) から変更した場合、"(local)\インスタンス名" としてください。

・以下は、SSCCMDB インスタンスのインストールフォルダが「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.SSCCMDB\MSSQL」の場合の実行例です。実際のパスに合わせて実行してください。

---

```
> sqlcmd -E -S (local)\SSCCMDB
1> RESTORE DATABASE RM_PerformanceDataBase2
2> FROM DISK = 'C:\%temp%\sysmonbk.dat'
3> WITH MOVE 'RM_PerformanceDataBase2' TO 'C:\Program
Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.SSCCMDB\MSSQL'
```

```
¥DATA¥RM_PerformanceDataBase2.mdf',  
MOVE 'RM_PerformanceDataBase2_log' TO 'C:¥Program  
Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11.SSCEMDE¥MSSQL  
¥DATA¥RM_PerformanceDataBase2_log.ldf',  
REPLACE  
4> go
```

### 3.5.3. SSC サービスの開始

1. SigmaSystemCenter の設定情報のインポート完了後、以下の開始順番に従って、関連サービスの開始を行ってください。

SigmaSystemCenter の各コンポーネントのサービスに名については、「4.2 SSC のサービス一覧」を参照してください。

#### 【サービス開始順番】

1. [VMware 関連サービス] (VMware を使用している場合)
  2. [iStorageManager 関連サービス] (iStorage のストレージ制御を行っている場合)
  3. [ESMPRO/ServerManager]
  4. [DeploymentManager]
  5. [SystemProvisioning]
  6. [SystemMonitor 性能監視]
2. IIS の再起動  
IIS を再起動するため、コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
iisreset /restart
```

## 3.6. ESMPRO/ServerManager への再登録

以下の手順に従って、移行元の ESMPRO/ServerManager に登録されていた管理対象マシンの再登録を行ってください。

1. 管理対象マシン (コンポーネント) の再登録
  1. ESMPRO/ServerManager の WebGUI にログインします。
  2. [グループ情報] タブの [コンポーネントの追加] - [自動登録] を選択します。
  3. IP アドレス範囲指定検索で、監視対象コンポーネントの IP アドレスを含む範囲を指定します。
  4. 必要に応じて各項目の設定を行い、[検索] をクリックします。
2. アクセス不能アラート検出設定
  1. 登録した管理対象マシン (コンポーネント) を選択します。
  2. [設定] タブ の [サーバ監視設定] を選択し、[編集] をクリックします。

3. [SNMP による監視] の [サービス無応答時にアラートを登録する] を "有効" に設定します。
4. [アラートの抑制] の [リトライ回数] に値を設定します。 (\*)
5. [適用] をクリックします。

(\*) [リトライ回数] に設定する値は、SigmaSystemCenter の「グループプロパティ設定」ウィンドウの [死活監視] タブで設定されている [サーバダウン検出リトライ回数] の値を設定してください。

「グループプロパティ設定」ウィンドウの [死活監視] タブについては、「SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド」の「5.4.13 [死活監視] タブを設定するには」を参照してください。

上記以外の ESMPRO/ServerManager の設定項目を変更していた場合、適宜手動で再設定を行ってください。

## 3.7. SSC0301-0003 パッチ適用

SSC0301-0003 パッチ適用を行ってください。

SSC0301-0003 パッチは以下から入手してください。

◆ 社内ページ

<http://support.pf.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102512>

◆ 社外ページ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010102512>

## 4. 補足事項

### 4.1. レジストリの編集

移行元環境でエクスポートした SigmaSystemCenter のレジストリをインポートする場合、環境によってはレジストリの編集が必要になります。

例えば、移行元環境 (32 ビット OS) では SigmaSystemCenter の既定のインストールフォルダは、

C:\Program Files\NEC

となりますが、移行先環境 (64ビット OS) では SigmaSystemCenter の既定のインストールフォルダは、

C:\Program Files (x86)\NEC

となるため、レジストリ内のパス情報を修正する必要があります。

変更後のパスについては、スペースや括弧などを正しく修正してください。

半角 / 全角を誤って記載したり、間違った括弧を使用したりするとサービスが起動しなくなる可能性がありますのでご注意ください。

レジストリの修正は、以下の手順で行ってください。

※以下は、移行元環境のインストールフォルダのパスが「C:\Program Files\NEC」、移行先環境のインストールフォルダのパスが「C:\Program Files (x86)\NEC」の例です。

1. メモ帳を起動し、エクスポートした reg ファイルを開く。
2. 「Program Files」を「Program Files (x86)」に置換する。
3. パスが変更されたことを確認した後、reg ファイルを上書き保存する。

### 4.2. SSC のサービス一覧

SigmaSystemCenter 3.1 update 1 の各コンポーネントのサービスは、以下の通りです。

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- DianaScope ModemAgent
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service

- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Common Component
- ESMPRO/SM Event Manager
- ESMPRO/SM Trap Redirection
- ESMPRO/SM Web Container

#### [DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

#### [SystemProvisioning]

- PVMService

#### [SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

作成日: 2013/05/31